

# 書き言葉における、生徒の対教師敬語表現について 新潟市とその周辺の小学校・中学校・高等学校の調査結果から

Elena Slyusareva

## Abstract

This paper analyzes the students' actual use of the honorific expressions for a teacher and the changes in their usage corresponding to the developmental stages of the students.

For these purposes the author gathered data by compositions that were written to teachers by the students of different age groups. The entire data was gathered from elementary, junior and senior high school students in Niigata city and its surrounding areas. Based on the obtained data, the actual figure of honorific expression by students is considered.

キーワード.....敬語表現 親疎関係 「ウチ・ソト」グループ 文体

## はじめに

作文を分析したデータに基づいて、書き言葉における生徒の対教師言葉遣いについて考察したい。生徒の成長過程に伴う言語活動の変化を明らかにしたい。注目すべき点として、学年が高くなるにしたがって、生徒の対教師敬語使用率が高くなるかどうかを考察したい。今回のテーマの動機や出発点は修士論文、Elena Slyusareva(2002)から派生したものである。

今回のデータは日本語の書き言葉の分析であり、そのデータを著者の研究のテーマである「待遇表現における日本語とロシア語との対照的な研究」の参考にしたい。

## 1 調査対象と方法

収集した書き言葉のデータは生徒が書いた「先生への手紙」という作文である(作文を書いた生徒は当日の教師との会話録音に参加した生徒である)。作文の分量は A4 の用紙 1~2 枚である。

表 1 書き言葉の調査における調査対象

学校	男子	女子	生徒の計	調査対象グループ
A 小学校	2	2	8	第3学年 1グループ
	2	2		第6学年 1グループ
B 小学校	2	2	8	第3学年 1グループ
	2	2		第6学年 1グループ
C 中学校	4	4	8	第2学年 2グループ
D 中学校	4	3	7	第2学年 2グループ
E 中学校	4	4	8	第2学年 2グループ
F 高等学校	4	4	8	第2学年 2グループ
J 高等学校	4	4	8	第2学年 2グループ
全校合計	28	27	55	7校 14グループ

調査時期は 2001 年 7 月下旬～2001 年 9 月上旬、および 2001 年 10 月下旬である。

### 書き言葉における敬語表現の使用

表 2 生徒の作文の分析

学校		小3		小6		中2		高2		
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
文数		36	44	44	48	105	164	85	102	
節数		49	54	49	60	116	170	100	120	
敬語	尊敬語 (文中含めて)	4	4	0	1	2	4	15	21	
	謙讓語 (文中含めて)	0	0	0	1	0	0	3	11	
	丁寧語 (文中含めて)	39 (80%)	45 (83%)	34 (69%)	32 (53%)	101 (87%)	153 (90%)	98 (98%)	100 (74%)	
	美化語	0	0	0	2	0	2	0	1	
自称詞	私	0	12	0	9	3	20	26	22	
	俺	0	0	0	0	1	0	0	0	
	ボク	4	0	8	0	5	0	7	0	
	自分	0	0	1	0	0	1	2	1	
文末形式	文体	敬体	36 (100%)	43 (98%)	34 (77%)	32 (67%)	96 (91%)	151 (92%)	83 (98%)	97 (95%)
		常体	0	1 (2%)	5 (11%)	8 (17%)	9 (9%)	12 (7%)	2 (2%)	3 (3%)
		形容詞・形容動詞止め	0	0	1 (2%)	2 (4%)	0	0	0	1 (1%)
		体言止め	0	0	4 (9%)	6 (13%)	0	1 (1%)	0	1 (1%)
挨拶文	手紙の初め	ある	4名	4名	3名	3名	9名	10名	8名	8名
		なし	0	0	1名	1名	2名	2名	0	0
	手紙の終り	ある	4名	4名	3名	3名	9名	12名	8名	8名
		なし	0	0	1名	1名	2名	0	0	0
文の飾りとしての要素		0	0	11	27	0	6	0	1	

表で用いたいくつかの項目について

敬語使用率を明らかにするために、文を節に分けて数えた。ここで用いる「節」とは、いわゆる「主節」およびいわゆる「従属節」、「等位節」を含む概念である。「体言止め」も「形容詞・形容動詞止め」も「節」と見なした。「尊敬語(文中含めて)」「謙譲語(文中含めて)」「丁寧語(文中含めて)」は例えば「何ですかと言うと面白いからです。」「先生はとなりの町に住んでいらっしゃるので、どこかでお会いすることもあると思いますが、お体にお気をつけてお過ごしください。」(新潟市内 J 高等学校 2 年生の書き言葉の例である)のように、文中に出てくる「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」も含む用語である。「文体」は会話相手への配慮、心理的距離の調整などに基づいて選ばれた文末の形式である。「敬体」は丁寧な表現をするために文末を「デス・マス」などで結ぶ文体である。「常体」は文末を「ダ・デアル」で終える文体である。「体言止め」は発話上一つの文(同時に一つの節でもある)として考える。「体言止め」は断定の助動詞「デス・デアル・ダ」が省略されているが、その形で文を構成する機能を持っていると見なすことにする。例えば次 (a) の生徒 2 の発言は体言止めである。

(a) 先生(男) 部活は何だったっけ？  
生徒 テニス。

「挨拶文」は手紙の構造の一部である挨拶および結びの言葉である。「文の飾りとしての要素」は、例えば「♥」「**どきどき**」などのような、文章本体に付け加えられた飾りとしての要素である。

## 2 敬語使用率

### 小学校 3 年生の場合

「先生への手紙」という作文において、小学校 3 年生の対教師敬語使用率は非常に高かった。敬語の使用率は男子 80%、女子 83%であった。ただし、敬語使用は丁寧語「デス・マス」に限られていた。

話し言葉より、書き言葉のほうが文の節数が増え、文が一層長くなるという結果が見られた。それに伴って、「文中の敬語」(文中で使われている丁寧語「デス・マス」)の例も出現した。「文中の敬語」の使用は話し言葉では見られなかった。

(1) よそうですけど、先生は、40 才だと思います。...話が変わりますけど、僕は夏休みにはほう石の研究をしました。...また話が変わりますけど、夏休みに三重けん松坂市の三重子どものしろ、新潟でい

えはしぜん科学かんみたいなところです。

(新潟市内 A 小学校 3 年生。書き言葉から。男子 1)

尊敬語使用、謙譲語使用に関して言えば、彼らは謙譲語にまだ未習熟であるため、謙譲語の使用が見られなかった。尊敬語使用といえる例(男子 4 回、女子 4 回)が見られた。

- (2) B 先生お元気ですか。私は先生に毎日のようにさそいにいきます。「先生、何でいつもいっつも、遊んでくれないの?」そうするといつも先生はこう答えます。「先生もね、んもーいつも先生のおしごとあるんだからー」だけど、そのあと、いつもこうつけます。「んーでもあつくなくなったら、(九月)あそんであげる。」っていうので、九月をとともきたいしています。

(新潟市内 B 小学校 3 年生。書き言葉から。女子 2)

敬語使用の維持性に関して、作文は最初の文から最後の文まで「敬体」で書かれてある。



### 小学校 6 年生の場合

敬語使用率は高いという結果が出た。話し言葉に比べると書き言葉における敬語使用率が男子の場合約 3 倍、女子の場合約 2 倍に増えた。ただし、これらの敬語のほとんどは丁寧語の「デス・マス」の使用(男子 69%、女子 53%)である。男子の方が女子より高かった。謙譲語は女子によって 1 回使用されただけである。

- (3) 夏休みをむだにしないようにがんばって勉強してこうと決意いたしました。

(新潟市内 B 小学校 6 年生。書き言葉から。女子 1)

小学校 6 年生による「お」を伴う尊敬語および美化語の使用は 3 例であり、一人の女子生徒の作文の中にのみ見られた。

- (4) お話はここまで。また  お元気で。(「」は文の飾りで、感嘆符に当たる。)

(新潟市内 A 小学校 6 年生。書き言葉から。女子 2)

(4)で「お話」というような美化語が使われていることは、小学校 6 年生の日常会話でそれはよく使用されていることと関係があるだろう。この点は小学校 3 年生の場合と同じである。そして、尊敬語の使用は(4)の「お元気で」に限られている。しかし、小学校 3 年生と違って、小学校 6 年生は教師宛の手紙の冒頭で「お元気ですか」という尊敬語を全く使っていない。これは非常に興味深いことである。次の例を見よう。

- (5) 先生!元気ですか?私はすっごい元気ですヨ～。

(新潟市内 B 小学校 6 年生。書き言葉から。女子 2)

(5)でのような「お」による尊敬語の不使用は Brown & Levinson(1987)での「積極的なポライトネス」に相当する会話方略である。つまり、教師との心理的距離を縮めるための一つの方略

であると考えられる。

敬語使用の維持性において、ほとんどの作文には一貫した敬語(ただし、「デス・マス」の丁寧語)が使用された。一方、敬体と常体を交えた使用がされた作文(5編)もあった。

- (6) こんにちは!! A先生たまにだけど、**ドッチボール** してくれてありがとう!! たしかA先生は、音楽が好きだと思うけど、ぼくは、図工と、理科が好きです。図工は、工作などがあって好きです。理科は、実験があるからすきだけど、ノートに求めるのはきらい!! 音楽はまあまあ好き!! 以上 では、**さようなら** グッナイ。

(新潟市内A小学校6年生。書き言葉から。男子1)

このような混合文体は小学校3年生では全く見られなかった。

### 中学校2年生の場合

中学校2年生の敬語使用率は非常に高い。書き言葉における敬語の使用率は、同じ中学生徒たちの対教師会話における敬語使用率と比べて、より驚くほど高く、男子87%、女子90%である。小学校6年生と比べて顕著な差がある。中学校2年生の書き言葉における敬語の使用率は、話し言葉におけるその約3倍に激増した。文の節数が増え、文中で丁寧語が使用された例がいくつかあった。

- (7) 現在 中には冷水機が四台ありますが、この季節、冷水機には行列ができて、授業と授業のあいだの時間内に水を飲むことができません。

(新潟市周辺C中学校2年生。書き言葉から。男子1)

尊敬語の使用、謙譲語の使用については、中学生の作文の中に生徒による尊敬語の使用(男子2回、女子4回)が見られた。謙譲語の使用の例はゼロであった。

- (8) 先生は新しい学校にはもう慣れましたか。生徒とは仲よくしていらっっしゃいますか。

(新潟市周辺D中学校2年生。書き言葉から。男子2)

- (9) ...その時、すごく遠いはずの「アメリカ合衆国」からもH先生のお友達がたくさん来ていました。

(新潟市周辺E中学校2年生。書き言葉から。女子2)

美化語の使用に関しては、女子による2回が見られた。次はその例である。

- (10) 本当に、一年は早いものですね。もうお別れなんて...

(新潟市周辺E中学校。書き言葉から。女子3)

- (11) ランニングコースのじゃり道の所の下水の臭いを何とかしてください。ランニングの時、あそこを通ると臭いがキツイです。お腹も痛くなりました。だから何とかして下さい。

(新潟市周辺 C 中学校 2 年生。書き言葉から。女子 1)

敬語使用の維持性に関しては、ほとんどの作文で敬語(ただし丁寧語の「デス・マス」)がほぼ一貫して使用されている。

## 高等学校 2 年生の場合

高校生の対教師敬語使用率が一番高かった。敬語使用率は男子 98%、女子 74%であった。男子の敬語使用率が女子の使用率より高かった。

敬語の使用に関して、丁寧語の「デス・マス」の他に、尊敬語の使用 36 回(男子 15 回、女子 21 回)、および謙譲語の使用 14 回(男子 3 回、女子 11 回)が見られた。この数値は高校より下の発達段階のデータと比べて、著しい違いを示している。さらに、高校生の作文の場合、その話し言葉の場合と同様に、文の節数が多く、「文中の敬語」の用例も多く見られた。

(12) ...確かに部活は大変なのですが、勉強の方を優先にするという理由で、辞めることに、私は納得ができません。

(13) ...この度はご結婚本当におめでとうございます。前々からのお付き合いこのようなかたちで実現し、私も大変嬉しく思っているところです。

(新潟市内 F 高等学校 2 年生。書き言葉から。(12)男子 3、(13)女子 2)

(14) ...また、私の作品も見て批評していただき、なかなか参考にさせていただきました。...今回初めていつになく丁寧な手紙を書かせていただきました。

(新潟市内 F 高等学校 2 年生。書き言葉から。女子 2)

(14)では、女子 2 は相手である教師からの好意・恩恵を得たことを謙譲語によって表している。

敬語使用の維持性において、高校 2 年生が書いたほとんどの作文には敬語の使用が最初の文から最後の文までほぼ保持されている。しかし、一方、(14)の波線部の「見て」のように一部敬語の違反が見られた、「なかなか」や「いつになく」のような「親しみ」のヘッジ表現も使われている。その点で完璧とはいえないものの高校 2 年生は小 6、中 2 より敬語の使用により慣れていると言ってよいと思われる。

## 2 のまとめ

話し言葉と違って、書き言葉の場合、尊敬語(「お」や「ご」の使用を含めて)の使用が全学年にわたって見られた。しかし、尊敬語といっても、小学生や中学生による尊敬語は「お元気ですか」のような慣用表現の使用に限られている。一方、高校生は相手側を高めるために意識的に尊敬語および謙譲語を用いている。

書き言葉において、小3年生と中2年生を除く、男子による敬語の使用率が女子より高いという結果が得られた。話し言葉の場合、小3、中2、高2では女子より男子の敬語使用率が高いが、小6では女子のほうが高いという結果が得られた。

敬語の使用の維持性に関して言えば、書き言葉においては、話し言葉と違って、対象となった4つの学年の生徒たちは一貫して敬語を用いた。文末での「敬体」に関しては、極めて高い一貫性が見られた。

### 3 自称詞の使用

書き言葉である作文のように、目の前に相手がない場合には自称詞を明示する率は相対的に高まる。作文の場合、相手と自分とにある時間的・空間的なずれのために自称詞は必要とされたり、また多少かしくまった自称詞を使っても(教師や友達に対して)気恥ずかしさを感じなくて済むということにもなるのであろう。

#### 小学校3年生の場合

小3年生の場合話し言葉に比べて、自称詞使用率が多くなった。用いられた自称詞は、「僕」男子4個、「私」女子12個であった。

- (15) ...私は夏休みに、ヴァイオリンの合宿があります。ヴァイオリンは、私がひくのでは6ページもあります。それは私がならっていないときに1回目をしてしまったからです。

(新潟市内 A 小学校3年生。書き言葉から。女子1)

#### 小学校6年生の場合

話し言葉に比べて、書き言葉における小6年生の対教師自称詞の使用率は高かった。特に、男子による自称詞の使用数が増加した。書き言葉における男子の自称詞は「僕」8個、「自分」1個である。書き言葉における女子の自称詞使用にも変化が見られた。女子が使った自称詞は「私」のみ(9個)だった。教師との会話において女子によって用いられた自称詞「俺」は、作文の中には見られなかった。

- (16) ...僕はとし上の人にだけ(敬語を)使います。なぜかという、とし上の方は僕たちより、先に生まれて、いろんなことを知っているからえらいように思えます。だから敬語を使います。

(新潟市内 B 小学校6年生。書き言葉から。男子1)

教師宛の作文における、丁寧度が高い自称詞(男子「僕」、女子「私」)の使用は、小学校6年生

が手紙というコミュニケーション媒体の改まり度を認識していることを明らかに示している。

### 中学校 2 年生の場合

用いられた自称詞は「私」の例は 23 回(男子 3 回、女子 20 回)、「俺」の例は 1 回(男子による使用のみ)、「僕」は 5 回(男子による使用のみ)、「自分」の例は 1 回(女子のみ)であった。

コミュニケーションの媒体が話し言葉であるか、または書き言葉であるかということによって、中学生の自称詞使用には明示的な差が表れた。女子が用いた自称詞数は、単純に回数を比較して、7 倍に増えた。男子の自称詞使用にも顕著な変化が見られた。相手が目の前に存在する話し言葉の場合、中学校 2 年生男子が使用した自称詞は「俺」のみだったことを考えると注目すべき変化である。書き言葉の場合、自称詞「俺」の使用数が 1 回だけであり、それに代わる自称詞「僕」および「私」が使用された。

- (17) ...私は新しいクラスに大分慣れてきました。しかし、前の 1 年 5 組より、さらに、倍ぐらいはさわがしいクラスになってしまいました。私としてはもう少ししずかなクラスになってほしいと思います。私はまた C 先生の授業を受けたいと思っています。

(新潟市内 D 中学校 2 年生。書き言葉から。男子 2)

書き言葉における中学校 2 年生による自称詞使用には大きな変化が生じた。このことは中学生たちが書き言葉を改まり度の高いコミュニケーション媒体であると認識していることを明示的に示すものである。

### 高等学校 2 年生の場合

高 2 年生による対教師自称詞の使用数は、調査の対象となった 4 つの学年の中で一番多いと言う結果が得られた。使用された自称詞は、「私」48 回(男子 26 回、女子 22 回)、「僕」7 回(男子のみ)、「自分」3 回(男子 2 回、女子 1 回)である。男子による「私」という自称詞の使用頻度が高い。男子生徒による自称詞「私」の圧倒的な使用は高 2 年生の顕著な特徴である。さらに、男子は女子より多様な自称詞を用い、文中で自称詞が変わっている作文もある。

- (18) ...確かに部活は大変なのですが、勉強の方を優先にすると言う理由で、やめることに、私は納得できません。それを放棄するような部員を僕は引き止めるつもりも再び入部してもらうつもりもありませんが、ただ、退部したことを、大人になってから後悔することがなければなあと思います。

(新潟市内 F 高等学校 2 年生。書き言葉から。男子 3)



### 3 のまとめ

単純な回数比較ではあるが、話し言葉に比べて、書き言葉の場合、生徒による自称詞の使用頻度はどの発達段階においても激増した。会話においては、生徒は自称詞を省略して話す傾向があったが、作文の場合、行為の主体を明らかにする必要性が増し、それに伴って、自称詞の使用回数も増えたと考えられる。

書き言葉での自称詞の種類については、「私」のほぼ一貫した使用が際立っている。すべての発達段階において、話し言葉では、男子による「私」の使用が一切に見られなかったという結果に対して、書き言葉での男子による「私」の圧倒的な使用が顕著な特徴であると言える。すべての発達段階を通じて、丁寧度の高い自称詞(女子「私」、男子「私」・「僕」)がほぼ一貫して用いられたことは、生徒が書き言葉を改まったコミュニケーション媒体であることを充分認識していることを示すものである。

### 4 文末形式・文体

#### 小学校 3 年生


小 3 年生が用いた文体は、一例だけ「常体」の使用を除いて、すべて「敬体」(男子 100%、女子 98%)であった。「常体」の使用は女子の場合に見られ、(19)の女子 1 は教師に対して直接話し掛けているかのように書いている。

(19) 何で遊んでくれないの?

(新潟市内 B 小学校 3 年生。書き言葉から。女子 1)

#### 小学校 6 年生の場合

表で分類された文体の 4 つの文末形式すべてを用いている。小 6 年生の場合、「常体」の使用頻度(男子・5 回(11%)、女子 8 回(17%))、「形容詞・形容動詞止め」の使用頻度(男子・1 回(2%)、女子・2 回(4%))、および「体言止め」の使用頻度(男子・4 回(9%)、女子・6 回(13%))が見られた。しかし、小学校 6 年生の「文体」の全形式の中で「敬体」の使用頻度が一番高いという結果が出た。「敬体」の使用は、男子・34 回(77%)、女子・32 回(67%)であった。このことは、同じ小 6 年生の「話し言葉」におけるデータと極めて対照的であることに注意したい。

(20) いつも話したり遊んでくれてありがとうございます～~~す~~勉強も遊びもとっってもおもしろくて、学校も毎日行きたくくなります。

(新潟市内 A 小学校 6 年生。書き言葉から。女子 1)

(21) こんにちは。いつも勉強とかありがとう。...あと半年しかないけど残りの小学校生活もよろしくっ!!ではまた明日。

(新潟市内 A 小学校 6 年生。書き言葉から。男子 2)

(20)、(21)では生徒たちは教師との共通の経験である毎日の勉強や遊びについて書いている。いつも優しくしてくれる先生に感謝の気持ちを表している。ここで、小 6 年生は教師を身近な人であると感じ、自分の気持ちを感じるまま表している。必要なことは、書き言葉においても、話し言葉と同様に、小 6 年生には、「友達への手紙」という私的な場面と「先生への手紙」という公的場面との区別がまだ完全にはできていないということである。

## 中学校 2 年生

中 2 年生が用いた文体のほとんどが「敬体」であった。使用された「文体」は「敬体」(男子 91%、女子 92%)、「常体」(男子 9%、女子 7%)、「体言止め」(女子 1%)である。話し言葉と比べてみると、中学校 2 年生の対教師書き言葉は文体上顕著な違いがある。この点は小 6 年生の場合と共通している。

中学生の作文は内容的二つの種類に分かれる。一つは「お世話になった先生への感謝の言葉を表すお手紙」であり、もう一つは「校長先生へのお願い文」である。

(22) いつもお世話になっています。K 先生は私の一番そんけいする先生です。英語が得意で、誰にでも差別なく優しく接していて、よく相談にものってくれてとても印象に残るいい先生です。

(新潟市周辺 E 中学校 2 年生。書き言葉から。女子 4)

(23) いつもていねいに教えてくれてありがとうございますございます。問題を出された時、他の教科より、社会が一番おもしろいです。1 年の時の社会の先生が C 先生だった時も、けっこういい先生だと思いました。

(新潟市周辺 D 中学校 2 年生。書き言葉から。男子 3)

「お世話になった先生宛の手紙」という作文において、生徒たちはどの先生に作文を書くのかを自分で決めた。ほとんどの場合、生徒たちは自分の好きな先生を選び、「そんな先生にあこがれます」、「C 先生が大好きです」などのような表現を用いた。教師に対して自分の感謝の気持ちを表すために、中学生は(22)、(23)のような言葉遣いをしている。教師を評価する時、所々、生徒たちの作文の中には、「けっこういい先生だと思いました」のような表現が出てくる。「けっこう」という表現は一種のヘッジであり、親しさの話し言葉に頻出するものである。そのような言葉遣いが「～思いました」という敬語表現と自然に交じり合っているのが中学校 2 年生の特徴とも言える。

次に「校長先生へのお願い文」。一般的に、「誰」に「何」を頼むかによって、「依頼表現」のしかたが変わってくると思われる。この作文の場合、中学生の依頼を実現するための決定権

を持つ相手は「校長先生」、つまり生徒にとって明らかに上位者である。中学生の依頼内容は「古くなった学校の建物を建てかえるように」、「下水の臭いを無くしてくれるように」、「冷水機を増やすように」などであり、相手である校長先生の職務に直接関連するものが多かった。「校長先生へのお願い文」において、中学校2年生が校長先生に対して用いた依頼表現の展開法とそこに見られる敬語表現上の特徴：「切り出し」「事情説明」「依頼」という順番になっている。

(24) 校長先生にお願いがあります。このごろ、この学校は老朽化が進み、いたる所にひびわれやこわれた所があります。そこで、校長先生におねがいがあります。この学校を建てかえてください。...以上、これらのことをできるだけやってください。おねがいします。

(新潟市周辺 C 中学校 2 年生。書き言葉から。女子 2)

(25) 校長先生へ。もうすぐ、暑い季節がやってきます。野球部、サッカー部、陸上部など外でやる部活にはやっぱり水が必要です。野球部は水がありますが、サッカー部には、水道がありません。そこでお願いがあります。サッカー部に水道を付けてください。お願いします。...

(新潟市周辺 C 中学校 2 年生。書き言葉から。男子 3)

(24)、(25)での「依頼文」は「依頼表現」という発話行為の基本的な展開法に沿ったものである。その意味で敬語表現的展開と言える。さらに、生徒たちは「発言を緩和する働きを持つ表現」も使っている。例えば、(24)の「～できるだけやってください」や(25)の「やっぱり～必要です」などである。その他にも「自転車通学の地域をもう少し広くして下さい」などもあった。このような依頼の敬語表現的展開と発言を和らげる表現は目上の人である校長先生に対する生徒たちの配慮を表すものである。中学2年生が書き言葉ではこのような配慮表現できることは注目に値する。

## 高等学校 2 年生

高校生はほぼ「敬体」のみを用いる。高校生による「敬体」の使用は男子 98%、女子 95% である。他に使われた「文体」は「常体」男子 2%、女子 3% であり、「形容詞・形容動詞止め」高校生女子のみ 1%、「体言止め」高校生女子のみ約 1% である。

(26) ...先生のことですので、生徒たちに親身になり、正しいことと悪いこと、やるべきこと、やってはいけないことなどを体当たりで教えていることと思います。実際、私もそれで覚えたものです。その節はとても感謝しています。

(新潟市内 G 高等学校 2 年生。書き言葉から。男子 5)

書き言葉における、生徒の対教師敬語表現について (Slyusareva)

(27) ...先生は、おもしろい先生が多かったうちの学校の中でも特に個性的な先生でした。先生と毎日いつも一緒に遊んでいたあの頃がなつかしいです。

(新潟市 G 高等学校 2 年生。書き言葉から。女子 1)

(28)...いつも優しく、時には厳しく接して下さって、授業ではもちろん、普通に話をしている時にも、たくさんのことを教わりました。今日は夏休みで、先生方にはあまり会えませんが、9月1日の新学期には、元気で少し日焼けした先生方と楽しくおしゃべりしたいです。2学期も生徒をかわいがって下さいね。

(新潟市内 G 高等学校 2 年生。書き言葉から。女子 1)

高校生は話し言葉でもかなり「敬体」を用いている。つまり、話し言葉であろうか、書き言葉であろうか、高校生は基本的に教師に対して「敬体」を使用する。

#### 4 のまとめ

作文において、用いられた文体の中で「敬体」の使用頻度は全学年にわたって非常に高いという顕著な結果が得られた。このことは生徒が書き言葉というコミュニケーションの媒体の改まり度を充分認識していることを示すものである。小3年生の「文体」は、「常体」の一例を除いて、すべて「敬体」であるという結果が出た。小6年生の場合も「敬体」の使用率が比較的高かった。しかし、小6年生の作文の中には「敬体」と「常体」を併用した言葉遣いの例もしばしば見られた。小6年生は書き言葉の改まり度の高さを認識する、と同時に、教師に対して親しみを表す表現も用いている。中2年生の対教師敬体使用率は非常に高いという結果が得られた。一方、次の(29)に見られるように、中2年生の作文の中には教師に対する親しみをそのまま表しているものもあった。

(29) E先生の授業は楽しいです。楽しい理由は、E先生のバカ話や行動です。

(新潟市周辺 D 中学校 2 年生。書き言葉から。男子 3)

つまり、言語形式としての「敬体」でほぼ一貫して書かれた中学生の作文においても、私的な要素が現れることが多いのである。

高2年生の対教師作文は、ほぼ一貫して「敬体」で書かれている。ただし、公的と私的を充分区別できる高校生の場合においても、女子の作文では、教師に対する親しさを表す表現が多く見受けられるのは興味深い傾向である。

#### 5 挨拶文の使用について

手紙全体を一つの文章(あるいはテキスト)と考えれば、その内部に文章構造を見出すことが

できる。最も基本的な組み立ては、「前文」、「本文」、「末文」であると言える。「先生への手紙」というフォーマルな手紙の場合、生徒・学生の対教師「挨拶文」の使用は「敬語表現」にもつながると考えられる。「挨拶文」の使用に関して、小3・高2のほぼすべての作文の中で「手紙の初めの挨拶文」および「手紙の終わりの挨拶文」が使われた。しかし、特徴的な結果として、小6・中2の場合には「手紙の初めの挨拶文」の不使用(小6:男子1名、女子1名、中2:男子2名、女子2名)、および「手紙の終わりの挨拶文」の不使用の例(小6:男子1名、女子1名、中2:男子のみ2名)があった。

### 手紙の初めの挨拶文：

小3:「先生、お元気ですか。ぼくは元気です。」「お元気ですか。私はとても元気です。」など。

小6:「先生! こんにちは!」「こんにちは、いつも勉強とかありがとう。」「先生!元気ですか?」など。

中2:「A先生へ。いつもお世話になっています。」「前略。お元気ですか。」

高2:「御元気ですか、先生。私たちは元気です。」「日増しに暑くなってきているこの頃、T家の皆さんは元気でお過ごしでしょうか。」など。

大2:「お久しぶりです。お元気ですか。その節は大変お世話になりました。」など。

### 手紙の終わりの挨拶文：

小3:「先生、いつも勉強教えてくれてありがとうございます。<sup>女子生徒の名</sup>Aより」「では先生お元気で、さようなら。<sup>男子生徒の名</sup>Bより」

小6:「では、また明日。」「では、**さようなら**グッナイ。」「さあ、残り少なくなってきたし、そろそろ終わろうと思います～。さーらば!!優秀なる子供<sup>女子生徒の名</sup>Dより」「by Kizisi」など。

中2:「A先生、いろいろなことを教えてくれてありがとうございます。そしてこれからもいろいろとよろしく願います。<sup>女子生徒の名</sup>Cより」など。

高2:「県大会で会える所まで頑張りたいものです。では、さようなら。男子バレーボール副将<sup>男子生徒の名</sup>F。」「それでは、T家の皆様にもよろしくお伝えください。<sup>女子生徒の名</sup>Gでした。」など。

どの学年の作文の中にも、総じて、生徒の教師に対する感謝の気持ちが表れている。しかし、学年によって、表現の仕方には明らかな変化が見られる。小3年生の挨拶表現は慣用的な礼儀正しさに沿っていると言える。小6年生の挨拶表現には、彼らの教師に対する親密さや様々な感情的なニュアンスが出てくる。小6年生の表現の感情的な特徴は、あたかも「直接的話しかけ」のようである。中・高校生の挨拶表現のし方には、彼らが「教師宛の手紙」を公的な場面であり、改まり度の高いコミュニケーション手段であることを理解していることが示されている。

## 6 書き言葉における文の飾りとしての要素について

書き言葉のデータでは、様々な要素の使用が見られた。これらは3つに分かれる。まずは、言語表現の場合、片仮名表記や引き伸ばし記号である。次は、言語表現以外の記号の使用である。3つ目は、外来語の駄洒落的な使用である。この要素を伴う文章は「仲間に向かって話すように書く」という点が特徴である。そして、そのように書かれた文章は、あたかも話し言葉を記録したような形式をなす。

(30) 先生!!!こんにちは!!!

(新潟市内 A 小学校 6 年生。書き言葉から。男子 1)

(31) 勉強も、遊びもとっっても楽しくて、おもしろくて、学校も毎日行きたくなります。先生はアマ  
~イ物が大好きで、マカダミヤのチョコは、私にはおいしくて、もう食べましたか?ドッチボールを  
やっている、同じ年になったみたいでおもしろいです。先生はなげるとき、つよくてドキドキし  
ます。これからも、ドッチボールなどしてください。これからも4649!さようなら。

(新潟市内 A 小学校 6 年生。書き言葉から。女子 1)

(32) A 先生へ☆。音楽はまあまあ好!!! 以上!!! さようなら グッナイ。

(新潟市内 A 小学校 6 年生。書き言葉から。男子 2)

(33) 先生!元気ですか?私はすごい元気ですヨ~。最近暑いスね~。...それはさておき、本っ当に暑い  
です!...そだね~、夏といったら、アイスコーヒ?海もいいな~。プールにも行きたい~。連れてつ  
てください~(-\_-)。ま!100%無理です。...ディズニーランド、楽しみだけど、2万もとられるのが  
タタにキズ~。ま!そんなことも関係ナッスィング~!なんかもう、ほぼ独り言ですネ~。さあ、残  
り少なくなってきたし、そろそろ終わろうと思います~。さ~らば!!

(新潟市内 B 小学校 6 年生。書き言葉から。女子 2)

(34) あと、少しおちゃめな事はサイコ?でカワイイです。そんな先生にあこがれます。...これから  
も、明るい笑顔が似合う T 先生でいてください♥?。

(新潟市周辺 D 中学校 2 年生。書き言葉から。女子 4)

(30)-(34)の下線箇所が「文の飾りとしての要素」の使用例である。「とっっても」、「アマ~

イ」のような言語を使用した視覚的な要素である。また、「ね、よ」などの終助詞の使用とその片仮名化、「あ、っ」の小字の使用、「、～」引き伸ばし記号の使用も特殊的である。その他、言語表現以外の記号「! ☆ ♥ 4649 !」なども使用頻度が高い。「そだねー、」のような「会話的な陰影」を付加する挿入句の使用、「ナッスィンゲー」という外来語の使用が見られる。これらの一般的ではない要素の使用は、生徒・学生の表現の感情的なニュアンスをできるだけ表そうとしていると考えられる。

小6年生による「文の飾りとしての要素」の使用数が極めて高かった、ということである。その回数は38回(男子11回、女子27回)であった。このような要素を一切用いなかった小学校3年生に比して、小6年生は、教師を心理的に近い存在と見なし、自分の感情を示すための様々なコミュニケーション方略を使用していると言える。興味深いことに、中2年生の場合、そのような「文の飾りとしての要素」の使用数は減少し、その例は6個(女子のみ)であった。高校生の作文ではそのような要素の使用は非常に少なかった(高2・女子1回)。

## 6 のまとめ

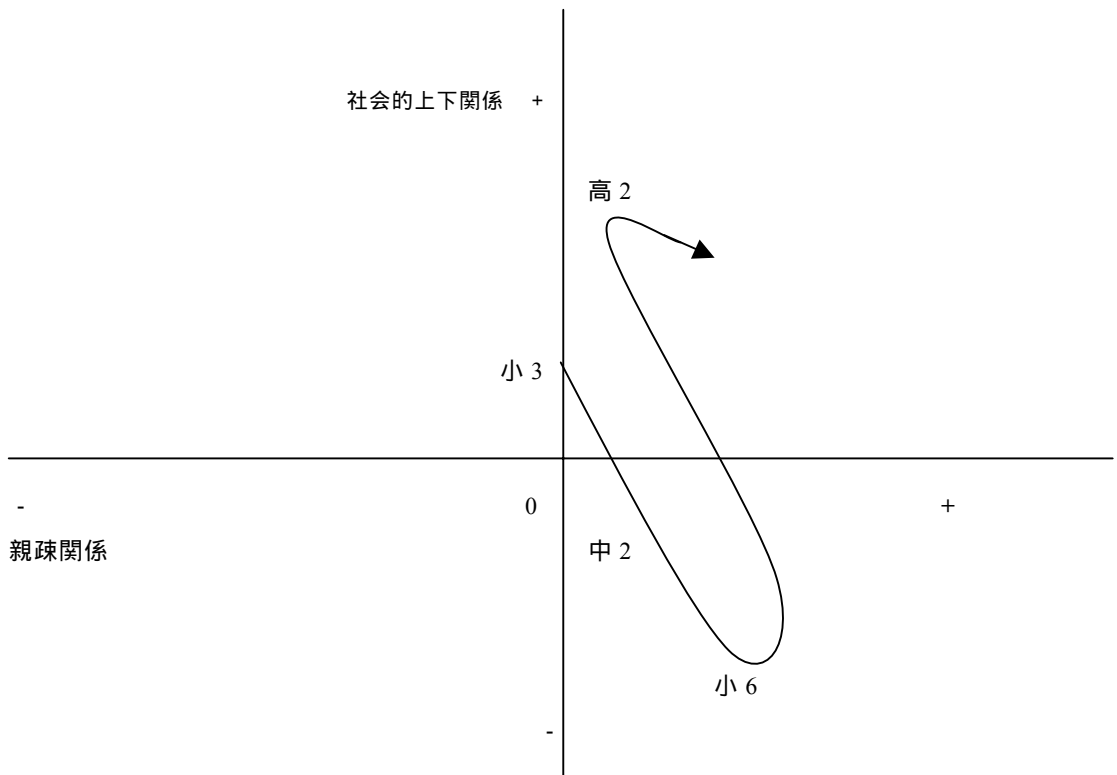
生徒による「文の飾りとしての要素」の使用例を見た。調査結果から次のことが明らかになった。小3年生は「文の飾りとしての要素」を用いない。小3年生にとって、教師宛の作文は改まり度が高いコミュニケーションの場面であることが分かる。

小6年生は「文の飾りとしての要素」を頻繁に用いている。彼らは教師に対して自分の感情や親密さを表そうとするためにそのような要素を多用するのだと考えられる。

中・高校生の場合「文の飾りとしての要素」の使用頻度は減少する。使用例はすべて女子によるものであった。このことから、中・高校生は書き言葉というコミュニケーション手段の改まり度の高さを充分認識していると考えられる(小6年生と比較されたい)。

全体的に、女子による「文の飾りとしての要素」の使用が圧倒的であった。このことから、女子の方が男子よりも親しさを表現することを重視しているということが考えられる。言い換えれば、女子のほうが男子よりも社会的な身分関係に対して、より柔軟な態度をしていると捉えられるかもしれない。

## おわりに



小学校3年生は教師をいわば「絶対的目上」の人であると見なし、会話や作文の中で一貫して敬語を使用している。しかし、小学校3年生の敬語使用は「デス・マス」の丁寧語に限られている。

小学校6年生と中学校2年生は改まり度を充分認識し、教師宛の作文の中に親しさを表現しながらも、同時に敬語的言語形式も重視している。中2の書き言葉における「敬体」使用率は約89%、尊敬語の使用も見られた。そのことから、「社会的上下関係」軸において、中学校2年生は小学校6年生より高い位置にあると判断することができる。

高校2年生は教師とのコミュニケーションにおける改まり度の高さを認識し、意識的に敬語表現を用いている。「社会的上下関係」軸に関して、高校生は教師に対して尊敬語および謙讓語を用いていることから、高位に位置づけられる。なお、女子による親密さ表現を重視した言葉遣い、終助詞の種類などを考察した上で、「親疎関係」を軸において、高2の位置を小3より上にした。



< 参考文献 >

Brown&Levinson(1987) *Politeness: Some universals in language usage*:Cambridge University Press.

Elena Slyusareva(2002)『学校における生徒・学生の対教師敬語表現の研究 新潟市および周辺の小学校、中学校、高等学校、大学での調査結果から』(全 125 頁、付資料頁)新潟大学大学院修士課程 人文科学研究科修士論文、2002 年 1 月提出。

主指導教員(船城俊太郎教授) 副指導教員(佐藤芳行教授・大石 強教授)